

神戸YMCA学院専門学校
自己点検・評価表

1.学校の教育目標

公益財団法人 神戸 YMCA はキリスト教精神に基づき、兵庫県の青少年等の心身と人格の向上を図り、奉仕の精神をやしなひ、もって民主社会の発展に寄与するとともに、世界の平和に貢献することを目的としています。（「公益財団法人 神戸YMCA 定款」より抜粋）

そして、本校は、時代が要請する専門性に対して豊かな柔軟性をもって集中的な知識と技能の専門教育を提供すると共に、人間として確固たる信念を持ち、自らの人生を切り拓いていくことのできる青年を育成することをめざします。

2.本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

<ホテル学科>

ホテル・ブライダル業界とのさらなる関係強化をめざし、職業人としてより実践的な指導体制を再構築していきます。そして、本校の目的をより広く理解していくための広報計画を推進します。

<日本語学科>

多様化する学生のニーズに対応し、より実践的な日本語能力を養成するためにカリキュラム内容の充実をめざします。そして、増加しつつある就職希望者への支援を強化するとともに、本校の目的をより広く理解していくための募集広報計画を推進します。

3.評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

評価項目	適切：4、ほぼ適切：3、 やや不適切：2、不適切：1、			
・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか	4	3	2	1
・各学科における職業教育の特色が明確にされているか	4	3	2	1
・社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想をいっているか	4	3	2	1
・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	4	3	2	1

① 課題

公益財団神戸YMCA全体の使命と活動方針と、学校事業の事業方針との整合性を確認すること。

② 今後の改善方策

公益財団神戸YMCAの中長期計画にあわせて、年度毎に学校事業の年度計画を作成し、その評価とフィードバックを徹底していくこと。

③ 特記事項

特になし

(2) 学校運営

評価項目	適切：4、ほぼ適切：3、 やや不適切：2、不適切：1、			
・設置団体は学校運営者として適切な団体であるか	4	3	2	1
・目標達成にむけた運営方針や中長期計画・単年度の事業計画が策定されているか	4	3	2	1
・事業計画にしたって教育活動が実施されているか	4	3	2	1
・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、	4	3	2	1
・運営組織や意思決定機能は、有効に機能しているか	4	3	2	1
・基本計画に従った予算執行が適切になされているか	4	3	2	1

・人事、給与に関する規定等は整備されているか	4	3	2	1
・校長、主任教員及び教員は、専修学校及び日本語教育機関で求められる要件を満たしているか	4	3	2	1
・留学生のための事務組織が整備されており、留学生の申請取次者が配置されているか。	4	3	2	1
・授業料等の内訳及び納付時期が明示されている。また、学費返金規定が公開されているか	4	3	2	1
・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4	3	2	1
・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4	3	2	1
・情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4	3	2	1

① 課題

公益財団法人神戸YMCAの全体方針に従って、カレッジ（専門学校）としての事業活動を計画実施しているため、担当職員の異動や学校事業以外の活動との両立が求められる。

② 今後の改善方策

主に教育活動を行う講師体制と学校運営を行う主事体制との役割を明確にし、主事職の異動に伴うリスクを最小限におさえていく。

③ 特記事項

特になし

(3) 教育活動

評価項目	適切：4、ほぼ適切：3、 やや不適切：2、不適切：1、				
・教育目標に沿って修業年限に対応した到達目標が明確にされているか	ホテル)	4	3	2	1
	日本語)	4	3	2	1
・到達目標に合わせて教育課程・カリキュラムが体系的に編成されているか	ホテル)	4	3	2	1
	日本語)	4	3	2	1
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	ホテル)	4	3	2	1
	日本語)	4	3	2	1
・関連企業や業界団体との連携により、教育内容やプログラムの作成や見直し等が行われているか	ホテル)	4	3	2	1
	日本語)	4	3	2	1
・関連企業や業界団体との連携により、実践的な教育（実習等）が体系的に位置づけられているか	ホテル)	4	3	2	1
・教育目標に合致した教材が選定されている。また、補助教材等は著作権法に留意されているか	ホテル)	4	3	2	1
	日本語)	4	3	2	1
・授業評価の実施・評価体制はあるか	ホテル)	4	3	2	1
	日本語)	4	3	2	1
・外部関係者からの評価を取り入れているか		4	3	2	1
・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	ホテル)	4	3	2	1
	日本語)	4	3	2	1
・学習内容、学事暦、学習及び学校生活における留意点、入管法上の課題等を、学生達に伝えているか	日本語)	4	3	2	1
・資格取得に関する指導体制がとられているか	ホテル)	4	3	2	1
	日本語)	4	3	2	1
・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教育を確保しているか		4	3	2	1
・業界団体との連携において優れた教員（本務・兼務を含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	ホテル)	4	3	2	1

・指導者の研修や指導力育成のための取り組みが行われているか	ホテル) 4	3	2	1
	日本語) 4	3	2	1
・職員の能力開発のための研修等が行われているか	4	3	2	1

① 課題

公益財団法人神戸YMCAのミッションに沿った事業活動が基本にあります。そのうえで、専修学校教育を通して、YMCAが願う人材育成を実現させていくことを目指している。

<ホテル学科>ホテル業界との関係を強化し、学生の職業意識を高めること、を考慮し、長期実習（6週間、3回/2年間）、Class in Hotel、現役のホテルエを講師として授業を行う等の取り組みを行ってきました。引き続きホテル業界との協力関係を維持・強化していくことが必要と感じている。

<日本語学科>実践的な語学力を養成するため、適切な人数（最大15名）、実践的な指導（会話練習、プレゼン・作文等）、チームティーチング、クラス担任制度等を導入している。そのため、講師の高い指導力が必要であり、講師研修の実施と指導経験を積んだ講師の採用と育成が必要となる。

② 今後の改善方策

教育目標に従って、神戸YMCA学院専門学校が求める学生像を明確にし、目的意識・学修意欲の高い学生の受け入れが必要となる。そのための広報手段の改善をすすめる。

③ 特記事項

特になし

(4) 学修成果

評価項目	適切：4、ほぼ適切：3、 やや不適切：2、不適切：1、			
・就職率の向上にむけての取り組みがなされているか	ホテル) 4	3	2	1
	日本語) 4	3	2	1
・資格取得率の向上にむけての取り組みがなされているか	ホテル) 4	3	2	1
	日本語) 4	3	2	1
・退学者率の軽減にむけての取り組みがなされているか	ホテル) 4	3	2	1
	日本語) 4	3	2	1
・卒業後の社会的な活躍及び評価を把握しているか	ホテル) 4	3	2	1
	日本語) 4	3	2	1
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し、学校の教育活動の改善に活用されているか	ホテル) 4	3	2	1
	日本語) 4	3	2	1

① 課題

在籍生の進学及び就職指導は徹底できているが、卒業後のフォローアップは系統たてて行なっていない。

② 今後の改善方策

卒業生の状況把握、ホームシグター、同窓会等の、継続性のあるサポート体制の組織化が必要となる

③ 特記事項

特になし

(5) 学生支援

評価項目	適切：4、ほぼ適切：3、 やや不適切：2、不適切：1、			
・就職（進路）指導に関する支援体制は整備されているか	ホテル) 4	3	2	1
	日本語) 4	3	2	1
・学校生活について相談する体制は整備されているか	ホテル) 4	3	2	1
	日本語) 4	3	2	1
・奨学金等の経済的な支援体制は整備されているか	ホテル) 4	3	2	1
	日本語) 4	3	2	1
・学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4	3	2	1

・課外活動に対する支援体制は整備されているか	ホテル)	4	3	2	1
	日本語)	4	3	2	1
・住宅やアルバイト、在留資格等の学生の生活環境への支援は行われているか	日本人)	4	3	2	1
	留学生)	4	3	2	1
・保護者と適切に連携をしているか	ホテル)	4	3	2	1
	日本語)	4	3	2	1
・卒業生への支援体制はあるか		4	3	2	1

① 課題

日本人：経済的な課題を抱える学生が増加していることから、奨学金等の経済的な支援体制の拡大が必要。また、地方生のための生活支援として宿舍紹介等の支援体制を継続していくこと。

留学生：安定した学校生活をおくための生活環境の確保と、給付型の奨学金の拡大が必要。

② 今後の改善方策

日本人：国の施策「高等教育の無償化」対象校への申請準備。ホテル現場での定期的な有給実習の紹介。

留学生：給付型奨学金の維持拡大。留学生支援制度の拡大（生活備品配布、越冬作戦等）。

③ 特記事項

特になし

(6) 教育環境

評価項目	適切：4、ほぼ適切：3、 やや不適切：2、不適切：1、				
・教育機関として適切な位置環境にあるか、兵庫県及び法務省の基準を満たしているか	4	3	2	1	
・施設・設備は、教育上の必要性に十分に対応できるよう整備されているか	4	3	2	1	
・学校外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	ホテル)	4	3	2	1
・防災に対する体制は整備されているか	4	3	2	1	

① 課題

2017年4月より新校舎が完成。現在は日常的な備品の再整備を行っている。

② 今後の改善方策

現状の備品の維持管理と追加で必要な備品の確認を行っている

③ 特記事項

特になし

(7) 学生募集活動

評価項目	適切：4、ほぼ適切：3、 やや不適切：2、不適切：1、				
・学生募集活動は、受入方針を定め、募集計画を策定し、計画に従って適正に行われているか	ホテル)	4	3	2	1
	日本語)	4	3	2	1
・学生募集活動において、学校情報提供や入学相談を行っているか	ホテル)	4	3	2	1
	日本語)	4	3	2	1
・学生募集活動において、教育内容や教育成果は正確に伝えられているか	ホテル)	4	3	2	1
	日本語)	4	3	2	1
・学費等の学生納付金は適切なものとなっているか	ホテル)	4	3	2	1
	日本語)	4	3	2	1
・海外の募集代理人（AG）の行う募集活動が適切に行われていることを把握しているか	日本語)	4	3	2	1

・入学選考基準及び方法が明確化されているか	ホテル)	4	3	2	1
	日本語)	4	3	2	1

① 課題

時代に即した広報媒体の選択、学校特徴の明確化とその表現方法、広報計画と募集活動への注力。

② 今後の改善方策

専門学校としてのポジショニングを行い、学校の特徴を再確認し、正しく広めていく努力を継続する。

<ホテル学科> ウェブサイト、パンフレット、の定期的な改定と、改定に伴う予算措置。

<日本語学科> 海外の協力者（信頼性の高い仲介会社や現地の高等教育機関）の発掘と関係作り。

③ 特記事項

特になし

(8) 財務

評価項目	適切：4、ほぼ適切：3、 やや不適切：2、不適切：1、			
・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4	3	2	1
・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4	3	2	1
・財務について会計監査が適切に行われているか	4	3	2	1
・財務情報公開の体制整備はできているか	4	3	2	1

① 課題

公益財団法人の全体会計に、学校の財務内容が含まれているため、学校単体の財務状況が判断しにくい。

② 今後の改善方策

学校単体の会計報告を作成できるよう、公益財団全体の総務費用より、カレッジ分担分を明確化する

③ 特記事項

特になし

(9) 法令等の遵守

評価項目	適切：4、ほぼ適切：3、 やや不適切：2、不適切：1、				
・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	兵庫県)	4	3	2	1
	法務省)	4	3	2	1
・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4	3	2	1	
・自己評価の実施と問題点改善を行っているか	4	3	2	1	
・関係省庁、法務省入管局への届出・報告を行っているか	4	3	2	1	

① 課題

兵庫県の専修学校設置基準、法務省の告示基準、に従って適切な運営を行うこと

② 今後の改善方策

自己点検で明らかにされた課題の解決にむけての取り組みを継続していく

③ 特記事項

特になし

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切：4、ほぼ適切：3、 やや不適切：2、不適切：1、			
・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献をおこなっているか	4	3	2	1

・学生のボランティア活動を奨励・支援しているか	4	3	2	1
・地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4	3	2	1

① 課題

地域貢献（オープンプログラム等）を実施・継続していくこと

② 今後の改善方策

特になし

③ 特記事項

特になし

(11) 留学生の入国在留 支援について

評価項目	適切：4、ほぼ適切：3、 やや不適切：2、不適切：1、			
・留学生の受入れ・派遣について戦略をもって行っているか	4	3	2	1
・留学生の受入れ、在籍管理等において正確な情報収集を行い、適切な手続き等がとられているか	4	3	2	1

① 課題

入学生の国籍が多様化するにつれて、対応すべき言語が多くなっている。

② 今後の改善方策

言語面でのサポートが可能な協力者の確保が必要となっている。

③ 特記事項

特になし

4. 学校評価の具体的な目標、計画の総合的な評価結果

本校の基本方針として、運営母体である公益財団法人「神戸YMCA」が求める目標に向けて、専門学校事業を通して、その実現を目指しています。そして、専門学校教育事業としての到達目標達成に向けて、単年度毎の事業・予算計画を設定し、それにしたがって事業運営を行っています。

2018年度は、初めての自己点検評価となるため、教育方針、組織、運営全般に関わる諸事項、校舎設備の項目について、学科会議の中で再確認を行いました。さらに、事業活動の目標に対する取り組み・進捗状況を確認したうえで、次年度の事業計画を策定していきました。

2017年に新校舎への移転を完了し、校地校舎の変更手続きを行いました。2017-2018年度の2年間をかけて新校舎の備品その他の教育環境を整備してきました。今回の学校評価を通して、当初目標はほぼ達成されている、と判断しました。引き続き、学生及び指導者からのニーズを聞き取り、継続して改善を目指していきます。

教育面では、専門学校として目指している実践力養成にむけて指導内容の整備を目的としてきました。ホテル学科では、ホテル現場との関係を強化し、現役ホテルを講師として招聘、ホテル内での授業、長期実習先の拡大充実等に取り組んできました。日本語学科では、日本語検定等の対策授業やビジネス系の選択科目の導入、就職支援、非漢字圏からの学生への指導方法改善等に取り組んできました。今回の評価を通して、両学科ともほぼ目標としている項目は実施できています。

広報面では、学校のポジショニングをとおして、学校の特色を正しく発信していくこと、を目標としてきましたが、作業完了までには至らず、次年度以降に継続していく予定です。

2019年度は、教育内容・教育環境の改善を継続することに加えて、両学科の特徴をより明確化し、教職員一同が課題を共有した上で、募集から卒業まで一貫して学生支援ができる学校組織への変革を目指していきます。

今回の自己点検は、文部科学省が推奨する専門学校用の自己評価フォームに合わせて行いました。学校関係者評価にもあるように、4段階評価を継続するか、より具体的な内容を明示する等、より学校運営にフィードバックする手法を検討していきます。